

Beauty Monthly Topics

2017年エステティック3大ニュース

①大手エステティックチェーンの経営交代

2017年はじめに飛び込んできたのが、エステティック大手のソシエ・ワールドを三越伊勢丹ホールディングスが買収するという話題。買収金額は109億円とされています。それに続き、2月にはたかの友梨ビューティークリニックが株式会社RHVに完全子会社化されました。RHVは2016年に脱毛サロン大手のミュゼプラチナムを傘下に収めたことでも有名です。



②大手脱毛専門サロンの経営悪化

2016年経営危機を迎えた脱毛サロン大手「ミュゼプラチナム」を株式会社RHVが傘下に収めた事が記憶に新しい中、特定商取引違反で消費者庁から9ヶ月の業務停止命令を受けていた脱毛専門サロン「エターナルラビリス」が4月に倒産。そしてこのエタラビをスポンサー支援としてミュゼが申し出てスポンサー契約を行いました。相次ぐ脱毛サロンの契約トラブルなどの問題はエステティックサロンにも少なからず影響を与えており、脱毛専門サロンとエステティックサロンの違いの明確化が必要と思われる。



③10年間で約1万人のエステティシャンが業界離脱

エステティックサロンにおいてももっとも大切なのはエステティシャンです。しかし労働問題(労働時間や過剰な売上目標)や人間関係がもとで業界を離脱することになったエステティシャンがここ10年間で1万人と非常に由々しき事態です。離脱したエステティシャンを戻すこと、なによりエステティシャンの離脱を防ぐための地位および労働環境の改善が必要に迫られています。

番外編:2017年今年の漢字は「北」

北朝鮮問題に九州北部豪雨、北海道のじゃがいも不作。また、北海道日本ハムの大谷選手や清宮選手の話などが選ばれた理由との事。ちなみに、2位は「政」、3位は「不」...

謹賀新年



新年明けましておめでとう御座います!!

旧年中は格別のご愛顧を賜り心より御礼申し上げます。

さて、2018年はエステティック業界にとってどんな年になるのでしょうか?

昨年多くのサロンオーナー様とお話をさせて頂きましたが、殆どの方が「厳しい」「売上が伸びない」「本当に日本の景気は回復しているの?」と、これからの先行きをご心配されることしきりでした。特に、昨年の9月10月は厳しかったと仰るサロン様が多かったのが印象に残っております。

昨年11月付の日経MJによると、サービス業35種の内29業種が前年実績を超えておりましたが、残念ながらエステティック業は△6.1%で前年を下回る結果となりました。中身を見ると、客数は平年なみだが客単価がやや下がり、結果マイナスとなったのが要因のようです。

一方で成長業種を分析すると、『なりたい自分に近づくためにお金や時間を惜しまない』《自己実現型》の消費が伸びているようです。それを鑑みると、エステティックはまさにその極みだと思えます。

では、なぜサロン売上に反映されないのでしょうか?

2018年は、根本に立ち返り、なぜサロンに反映されないのかをメニューやトリートメント内容と照らし合わせることから始める年ではないでしょうか。

そして2018年は、従来の右肩上がりの売上至上主義ではなく、質と価値の構築が出来たサロン様が継続の力を持つのだと思います。これはディーラーであるサンクも同じことだと考えています。「新たな価値」にお応えできるエステティック商社として、今年も努力していく所存です。今年もサンクは『素晴らしくしようじゃないか、エステティック!』を合言葉に、サロン様と共に繁栄を目指し一緒に歩いて行きたいと存じます。本年も何卒ご愛顧の程、よろしく願い申し上げます。



株式会社サンク 代表取締役会長
清水 收一
社員一同